

V パネルディスカッション

1. テーマ 「活動の広がりをめざして」

今回のつどいのテーマ「新たな連携と活動の展開」に呼応して、パネルディスカッションでは、失語症会話パートナーの活動がどのように広がつつあるのかを、4名のパネリストに発表してもらいました。発表は最初に、名古屋で会話パートナーの会としてNPO法人を立ち上げた「あなたの声」の立ち上げまでの経緯を、次に、世田谷区の会話パートナーの会「世パネット」が失語症の人にもっと自分達の活動を知ってもらおうと作成した失語症回覧板について、そして四日市市からは市の事業として会話パートナー派遣事業が実施されるまでのご苦勞を、最後にNPO法人和音から会話パートナーが失語症の人の自宅に訪問して会話を楽しむ訪問事業について発表しました。それぞれの詳しい内容は資料をご覧ください。最後に、それぞれのパネリストの発表に対して質疑応答が交わされました。

2. パネリストの発表

<パネリスト>

- ① 会話パートナー同士のつながり
NPO法人「あなたの声」
- ② 会話パートナーの啓発
川合英子(世パネット)
- ③ 四日市市の派遣事業制度
堀本一浩
- ④ 在宅訪問について
田村洋子(NPO法人和音)

<座長>

NPO法人和音 副代表 小林久子



① 会話パートナー同士のつながり

愛知県失語症会話パートナーの会 NPO法人あなたの声

あなたの声は、失語症者のコミュニケーション支援活動の輪が広がるように次の事に重点を置き取り組んでいます。

- ① 会員の普及を図るために会話パートナー養成講座 を毎年開催しております。
- ② 啓発活動にも傾注し、通信の発行、リーフレットの発行 ホームページの開設を行い、広く市民に理解を求めています。
- ③ 会の運営は、皆が参加する事を基本に、役割分担を決めて会の運営を行っています。
- ④ NPO法人にすることにより、この会の継続的安定的を期待しています。社会的に信用が高まり活動の輪が広がることを期待しています

会話パートナーNPO法人あなたの声経緯

西暦	年号	内容
2000	H12	愛知県失語症友の会連合会
2004	H16	愛知県失語症地域支援を考えるSTの会
2005	H17	第1・2期会話パートナー養成講座開催
2006	H18	第3・4期会話パートナー養成講座開催
2007	H19-1	愛知県失語症会話パートナーの会設立世話役会
2007	H19-5	愛知県失語症会話パートナーの会設立準備委員会
2007	H19-7	愛知県失語症会話パートナーの会第1回定期総会
2013	H25-3	NPO法人設立総会開催
2013	H25-5	NPO法人設立申請手続き
2013	H25-9	NPO法人設立登記完了
2014	H26-4	NPO法人第1回定期総会開催(会員68名)

③

NPO法人あなたの声申請内容

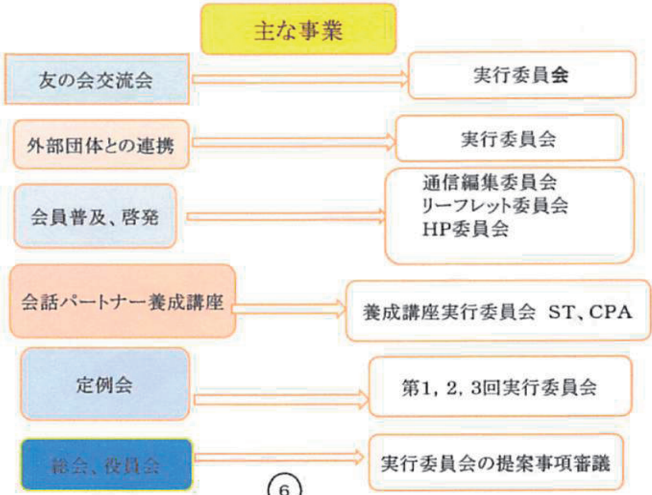
項目	内容
1	名称
2	代表者名
3	事務所所在地
4	活動の種類
5	活動に係る事業

④

NPO法人あなたの声組織 会員87名 賛助会員35名

役職名	氏名	担当業務
理事長		組織全般
副理事長		友の会、連合会、他団体に関する事業
副理事長		会員の普及、啓発に関する事業、財政
副理事長		会話パートナー養成講座、技術向上に関する事業
理事		会計全般
理事		事務局
理事		事務局
理事		書記(各会議の議事録)
理事		会話パートナー養成講座事業
理事		地域支援、連合会、他団体の窓口
理事		技術向上に関する事業、他団体の窓口
監事		会計監査、他団体に関する事業
監事		会計監査、友の会、連合会に関する事業

⑤



⑥

はなの木会
毎月第3日曜日 13:30～
名古屋市障害者スポーツセンター
連絡先: 粕谷志保子

みかん山友の会
2ヶ月に1回 土曜日
名古屋市総合リハビリセンター
連絡先: 大島ゆかり

ふきのとう
毎月第2水曜・第1土曜
名古屋市藤が丘
連絡先: 粕谷志保子、辻森悦子

ドリーム菜々会
毎月第3火曜日
連絡先: 近藤咲子

ブナの会
毎月第2土曜日 10:00～
江南市老人福祉センター
連絡先: 大野美晴

会員の活動場所

ハートの会
毎月第4火曜日 10:00～
瑞穂区生涯学習センター
連絡先: 加藤美穂子

あいちハート倶楽部
名古屋市総合リハビリセンター
連絡先: 近藤咲子

会員の活動場所

ドリーム伏見
毎月第2火曜日、第4土曜日
連絡先: 辻森悦子、根崎和子

知多言語の会
奇数月第1日曜日
半田市雁宿ホール
連絡先: 児島千香子

ホトギス
偶数月第2土曜日 13:30～
一宮市 大雄病院
連絡先: 田中春美

生活コミ
名古屋市総合リハビリセンター
毎週水曜日 13:00～
連絡先: 岩橋秋子

笑い太鼓
毎月第4日曜日
連絡先: 大島ゆかり

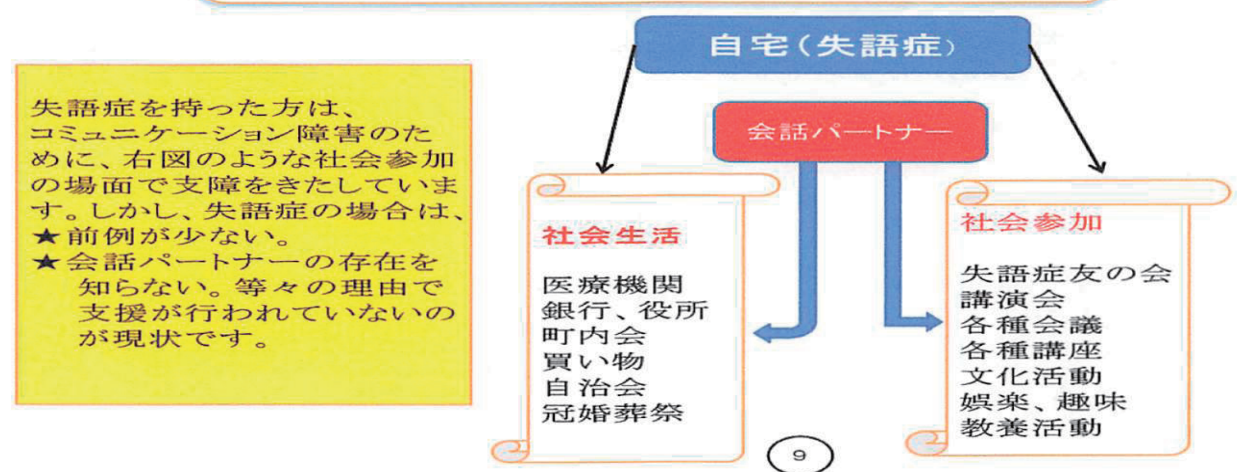
こだまの会
2ヶ月に1回土曜日
大山市中央病院言語室
連絡先: 山木田文子

わだちの会
毎月第2日曜日
豊田市民活動センター
連絡先: 玉置幸子

通所リハセン
名古屋市総合リハビリセンター
毎週水曜日 13:00～
連絡先: 平手昌子

若い失語症者の集い
奇数月の日曜日名古屋市
奇数月の土曜日刈谷市
連絡先: 藤井育子

失語症者の社会参加促進に向けた支援は



失語症を持った方は、コミュニケーション障害のために、右図のような社会参加の場面で支障をきたしています。しかし、失語症の場合は、★前例が少ない。★会話パートナーの存在を知らない。等々の理由で支援が行われていないのが現状です。

会話パートナーの活動

個人支援

会話

バス旅行

グランドゴルフ

パソコン

受付

医療機関窓口

スリッパ卓球

フーセンゲーム

輪投げ

買い物

代筆

囲碁・将棋

②会話パートナーの啓発

川合英子(世パネット)

「みんなで読む失語症回覧板」制作まで

世田谷区では2005年から失語症会話パートナーの養成を始め、毎年、10名前後が受講してきました。

区内で活動する会話パートナーの相互交流、意見交換の場として、2007年に失語症会話パートナー世田谷連絡会「世パネット」を結成しました。

現在、活動している会話パートナーは50名程度。失語症のグループ訓練や、区内に10グループある失語症者の自主グループで活動しています。

10年近く、私たちは失語症の方を会話、交流をとおして支援してきました。しかし、多くの当事者さんは私たちが失語症について、また、失語症の方との会話の仕方について学び、失語症者のコミュニケーションを支援したいと思っている「失語症会話パートナー」であることをご存じではありません。

また、私たち会話パートナーが「世パネット」を結成し、少しでも失語症の皆さんの力になりたい、応援したいと活動していることもご存じありません。

そのような状況から一歩を踏み出すために、「失語症会話パートナー」というボランティアがいる、ということ、世田谷にはその会話パートナーの団体「世パネット」がある、ということ、まず、もっと当事者さんに知っていただく必要があると考えました。

さらに、私たち「失語症会話パートナー」をただ支援者としてだけでなく、地域の仲間として、もっと身近な存在と感じて頂けるように私たちが努力する必要があるのではないか。日ごろ、地域社会で会話の機会もなく過ごしていらっしゃる失語症の方が、私たちの顔を見たら、「何か言ってみよう」「立ち話でもしてみよう」と思ったださるような存在になりたい、と思いました。

失語症当事者さんが「支援の受け手」「被支援者」ではなく、もっと主体的な存在となって、私たち会話パートナーとともに、失語症者へのコミュニケーション支援の必要性を周囲に訴えていくことができるような関係になれば、と思いました。

これが「回覧板」制作に至った思いです。

制作にあたっての基本は以下の3点

- ① 「失語症会話パートナー」を知ってもらい、身近に感じていただくこと。
- ② 「回覧板」を会話パートナーが当事者さんに手渡しすることで、会話のきっかけとして利用し、また当事者さんから疑問や質問をいただけるような内容にして、会話のタネとする。
- ③ 当事者さんに失語症に関連する催しや情報等を分かりやすく提供する。

ネーミング

「みんなで読む失語症回覧板」はいろいろ考えた末の名前です。当事者さんからさらにご家

族や、病院、地域などで出会うお仲間などに会話のタネとして利用していただきたい、単なる「お知らせ」などの広報に終わらせたくない、との願いを込めたものです。

今後に向けて望むこと

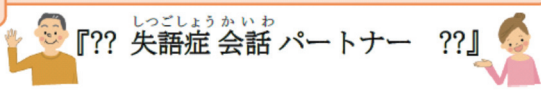
当事者さん同士がお互いの失語症についての理解を深め連帯して、主体的にご自分に必要な支援を考え、訴えてくださるようになることを期待しています。

そのために、当事者さんに支援者の存在や支援の方法などを知っていただいて、私たち会話パートナーを上手に活用していただけるようになることを願っています。

みんなで読む 失語症 回覧板

第1号

発行 2014. 7. 1 世パネット 失語症会話パートナー世田谷連絡会



『?? 失語症 会話 パートナー ??』

?? 失語症会話パートナー 知ってますか ??

①知っている ②知らない

世田谷区では 平成17年(2005年)から

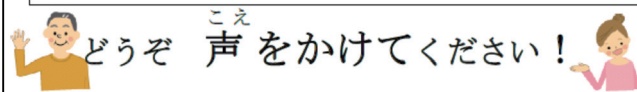
失語症会話パートナー を 養成しています

?? 世田谷区に 失語症会話パートナー 何人いる ??

① 10人ぐらい ② 30人ぐらい ③ 50人ぐらい

失語症会話パートナー は

「失語症の皆さんと 話したい!!」と 思ってます



どうぞ 声をかけてください!

読む 失語症 回覧板」とは …

- ・ 皆さんの 会話が 広がるように、『世パネット』が 発行

ト』とは …

- ・ 世田谷区の 失語症 会話 パートナーの 団体
- ・ 設立 平成 19年 (2007年)
- … 会員 50人 以上 (平成 26年 6月 現在)
- … 自主グループ、高齢者施設などの リハビリグループで 会話 支援

失語症 会話 パートナー の 養成 …

- … 世田谷区では 平成 17年 (2005年) から
- … NPO法人「和音」では 平成 12年 (2000年) から
- … 失語症について 講義、会話の 仕方を 勉強

③四日市市派遣事業制度

よっかいち失語症友の会 堀本一治

堀本一治さん プロフィール

- 平成8年9月、脳内出血で失語症
- 言語リビリのSTの紹介で「よっかいち失語症友の会」入会
- 平成16年度～24年度:よっかいち失語症友の会の会長
- 平成19年度～25年度:全国失語症友の会連合会の「理事」



(つどい当日は堀本氏欠席のため司会が代読)

事業開始までの活動の歩み

はじめ

- *平成16年4月:「よっかいち失語症友の会」の総会にて「会話パートナーの養成事業計画」採択。「失語症会話パートナーとは」の講演会開催(講師:東京都地域ST連絡会)
- *平成16年11月:「よっかいち失語症友の会」主催1回目の会話パートナー養成講座開催。修了者は27名。
- *平成16年12月:四日市市障害者大会で、「会話パートナーの制度化」を訴えた。

次のステップ

- *平成20年 5月: 四日市市身体障害者団体連合会重点活動方針「パートナー派遣事業」
- *四日市市の広報に「失語症とは」の特集記事2ページ(図1)が、掲載された。

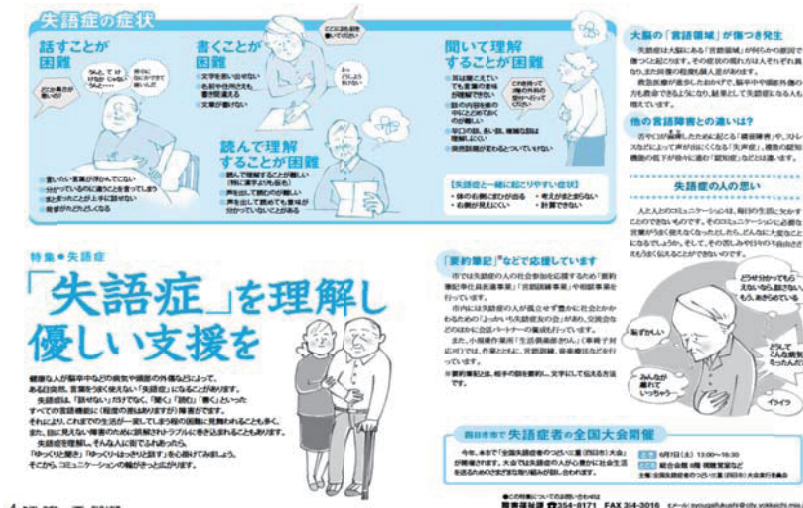


図1 四日市市広報「失語症とは」特集記事

- *平成20年 6月 全国失語症友の会連合会 全国大会 三重(四日市市)大会を開催

中日新聞、毎日新聞、伊勢新聞、四日市のケーブルテレビが取り上げ→行政、市民啓発
*平成21年3月：我孫子市へ視察 *平成21年7月：「会話パートナー養成・派遣準備委員会」立ち上げ。

そして…

* **平成21年8月～22年11月**(10回の会議)
「会話パートナー養成・派遣準備委員会」
「四日市市個性ある町づくり支援事業補助金」を受けて(3年間)、パートナー養成と派遣事業が実現。

* **平成22年1月24日**：第2回目の養成講座
開催。登録者：21名。

* **平成22年11月～**：運営委員会を9回開催。

* **平成22年12月**：派遣開始

1回の派遣で、交通費程度：1,000円の支給

* 「個性ある町づくり支援事業補助金」での派遣事業の派遣人数：**延べ463名**

この実績がみとめられて、制度化が実現味を帯びてきた

委員会メンバー

四日市市議会議員
四日市大学教授
言語聴覚士
有識者(民生委員)
会話パートナー
四日市市障害福祉課
四日市市社会福祉協議会
四日市市身体障害者団体連合会
よっかいち失語症友の会

計 17名

ついに…

* **平成25年度** **四日市市失語症会話パートナー派遣事業開始**

* **平成25年6月30日**：啓発公開講座「失語症にならないために」開催 参加者100名。
会話パートナー養成講座受講生募集を開始

* 会話パートナー啓発用のパンフレット作成：四日市市内の、各市民センター、社協、障害者福祉センターの窓口、障害者団体、主なりハビリ病院などに配布

* **平成25年9月**：第3回目「会話パートナー養成講座」開催 受講生30名
基礎講座：6回 演習：3回 → 23名が四日市市会話パートナー登録

* **平成26年2月**：会話パートナースキルアップ講座開催

参加者26名：日頃の感想、疑問点、困った時の対応策、自分の対応で、当事者さんに喜んでいただけた事で、不安感が解消した事など、課題や、効果などについて話しあった。

失語症会話パートナー派遣事業内容

目的：四日市市会話パートナー派遣事業実施要綱から

意思疎通を図ることが困難な、失語症者の社会生活等における、コミュニケーションを円滑に行い、もって失語症者の社会参加の促進を図ることを目的とする。

派遣対象

- * 市内在住の失語症者
- * 原則として身体障害者手帳の交付者

- * 失語症で意思疎通が困難な方

★医師や言語聴覚士が失語症で意思疎通が困難であると判断をされた方

会話パートナーの要件

- * 市内在住、在勤の方
- * 「会話パートナー養成講座」を修了された方



会話パートナー派遣先

- * 失語症者が参加する会議
- * 失語症者のために行われる催し物団体活動等
- * 障害福祉センター主催する事業
- * 現在は、個人派遣は、認められていない。

★宗教、政治活動に関する場合や営利を目的とする場合などは認められていない。

会話パートナー派遣の範囲・時間

- * 原則として市内のみの派遣
- * 例外として、失語症者の社会参加の促進に、役立つものと、市長が認めたものは、市外派遣も認められている。
- * 派遣時間は、原則午前8時から午後9時
- * 1人の派遣時間4時間以内(一日)



会話パートナー派遣費用

- * 失語症者の負担はなし(無料)
- * パートナーへの報償費(交通費込み) 1時間 1,394円 支給

派遣事業運営主体

- * 四日市市からの委託事業として NPO法人 障害者福祉チャレンジド・ネットが運営
- * この事業の担当理堀本+3名の、コーディネーター
- * 自分の思いが通じたときの、当事者さんの笑顔が、とても印象的
- * その笑顔が一杯見られることに、この派遣事業の意味がある。
- * 平成25年度 実績 派遣総時間:1066 時間 派遣延べ人数: 403 人
- * 平成26年度の派遣目標は、1439時間。一層の充実を目指す

会話パートナー派遣による効果

- * コミュニケーションが円滑に行えるようになった
- * 言葉が通じることによって、会の雰囲気明るくなった
- * パートナーが「確実に付いてくれる」という安心感から、参加者が増えた
- * パートナーとの信頼関係が生まれた
- * パートナーが失語症を理解する事で、それぞれの地域での啓発に繋がっている
- * 障害者総合支援法・地域生活支援事業の「意思疎通支援」コミュニケーション保障の事業対象に、失語症を必ず位置づけられるように



④在宅訪問について

NPO 法人和音代表 田村洋子

和音が 2006 年度から実施している、会話パートナーの個人宅への訪問活動について発表しました。大会後新たに 2 名の方の訪問が決まり、実施総数と参加した会話パートナーの数が発表時より増えています。2014 年 10 月現在、4 名の失語症の方への訪問活動を実施中です。

また会場では、実際に訪問活動に参加した 2 名会話パートナーさんに、訪問した感想なども伺いました。

訪問の目的

身体的状況、精神的状況、環境の問題などで集団の場に参加できない失語症の人に会話の機会を提供する。

訪問概要

- ・申し込みがあると、コーディネーター(ST)が通いやすい会話パートナー(OP)を探す。
- ・原則 ST からの紹介が必要
- ・初回は会話パートナーと一緒にコーディネーターが訪問し、訪問が妥当であると判断されると契約を交わす。
- ・利用料金
 - ST の訪問調整料(3000 円)
 - 会話パートナーの交通費(実費)
 - システム利用料金(300 円/1 回)
- ・原則 2 回/月、6 カ月だが、延長は可能
- ・3 カ月時にコーディネーターが本人・家族に様子を聞き取り、続けるかどうか確認する。
- ・会話パートナーは ST に訪問報告を行い、アドバイスを受ける。
- ・6 カ月ごとに契約を更新し、利用料金の精算を行う。
- ・2 年経過すると ST が訪問または電話にて、さらに延長するか、延長する場合和音のコーディネーターが必要かどうかの確認を行う。

実施内容

- ・これまでに 17 名の失語症者の自宅や居住施設への訪問を実施した。
- ・参加した会話パートナーは延べ 19 名
- ・訪問目的は、楽しい会話、パソコン指導、自分史作成の手伝いなど

実際に訪問活動を行った2名の会話パートナーさんの感想

1) 黒川武志さん

<訪問の相手と経過>

一人目は 60 歳代の男性。定年退職少し前に、仲間とグループで会社を立ち上げていた。最初は言葉と仕事にかなり不安を感じていた。訪問期間中友達との親交が深まり、6 ヶ月で終了。

二人目は、50 歳代の男性。この人は、リハビリに海外まで行くような熱心な人。6 ヶ月の訪問を 4 期行い、2 年経過後、和音を介さないで形で訪問を続け 3 年半経過している。現在は元職に復帰。今も言語リハビリと私との月 1 回の会話を継続している。ご本人と奥さんの努力が絶大だと感じている。

<自分自身の継続について>

あまり力まないでやっているのが良いのではないかなと思う。迷うこともあるが、あまり悩まずにやっている。世代的にも近いので、つきあい話の様なものでも続いている。



2) 泉マヤさん

<訪問の相手>

90 歳近い男性の方で、外出があまりできないので、ご自宅に訪問することになった。関わりは 1 年間。

<訪問に行って感じたこと>

グループの手伝いの経験しかなかったので、1 対 1、1 時間というのは始めはちょっと怖いと感じた。グループ内では、症状の重い方は聞いているだけで終わるようなことがあり、もっと関わった方が良いのではないかなという様な思いもあったが、1 対 1 では本当に、伝わったとか伝わらなかったとかを、お互いにキャッチボールでき、お互いに「伝わった感」を感じられたことがすごく良かったと思う。

そのうち、お相手の方が、ご自分で話題、伝えたいことを用意してくれるようになった。ことばを操る能力という人間らしさの一番もとになるものを失った方が、また自分で何かを人に伝えたいと、何かしら用意して伝えてくれるという行動、あの人に伝えようと思いつく、そういう機会になるのだということが、よくわかった。

経過が長い失語症の方と接する時には、健康面、笑顔の有無、満足して毎日を送っているか、最後に、どんなことを考えるようになったかというのを測るのが大事だと聞いた。1 対 1 の会話はそういう面があると感じた。



3. パネルディスカッション質疑応答(抜粋)

【「あなたの声」へ】

Q;活動の元になる、会話パさん同士のつながりはどう生まれていったか？

A;会話パ同士の連絡の行き違いなどの問題を乗り越え、数年かけてコツコツとやってきた。自分にとっては、ボランティアは、会長さん、組織作りをする仲間、友人、その家族などの具体的な誰かの役に立ちたいという小さな思いが、きっかけとなっている。そして、その継続が大事。

【「世パネット」へ】

Q;失語症回覧板を、当事者にどのように届けているか？

A;基本的な考え方は、会話パートナーが当事者さんとの会話のきっかけにすること。原則的には自主グループ(10カ所)を運営している会話パートナーが当事者さんに手渡し。受け取った当事者さんが回覧してくれればと考えている。当事者さんを蚊帳の外において会話パートナーが勝手に考えるのではなく、できればもっと身近で、当事者さんが私たちを引っ張ってくれるような存在になって、地域の仲間として一緒に歩いて行きたい。

【四日市市へ;(代理の応答 石崎さん)】

Q;四日市のパートナーの1ヵ月のニーズは？

A;基本的に月1回の失語症友の会の活動、月2回の障害者福祉センターでの1対1のお話の会、障害者団体の会議へ派遣。月に9時間分ぐらい。友の会に毎月8人ぐらい、1対1のお話の会には8人~10人ぐらいの要請。会話をすることと、会議での要約筆記とは求められるスキルが異なるのでコーディネイトが大変。十分要請に答えられていないときもあるようだ。四日市から出ている予算は、ほとんど派遣費。事務費、コーディネイト費はいつさい含まれない。派遣費が出ることで、希望者が増えたというのも事実だが、続くかどうかは別の問題だと思う。

Q;「失語症者推定 1000 人」の根拠は？

A;発症率から、四日市の人口から考えた推計。



【和音へ】

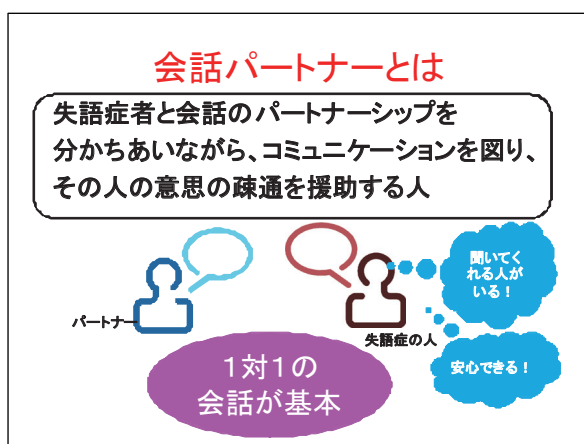
Q;個人派遣の際、相手の方と合うか合わないかというコーディネートはどの様にしているか？

A;そういうことも予想して、3ヵ月で見直しをする。和音の会話パートナーは登録制ではないので、組織的に誰かを派遣するということとはできない。日頃の活動状況をできるだけ把握して、交通の便が良く、実際に何年か友の会など経験している人などを、ST に問い合わせて、その方に依頼する。“合う”“合わない”は、会話パートナーの側からでも申し出はできる。

Q;訪問での具体的なアプローチの内容、変容はどこをとらえるのか？それを他の会話パートナーが閲覧できるか？

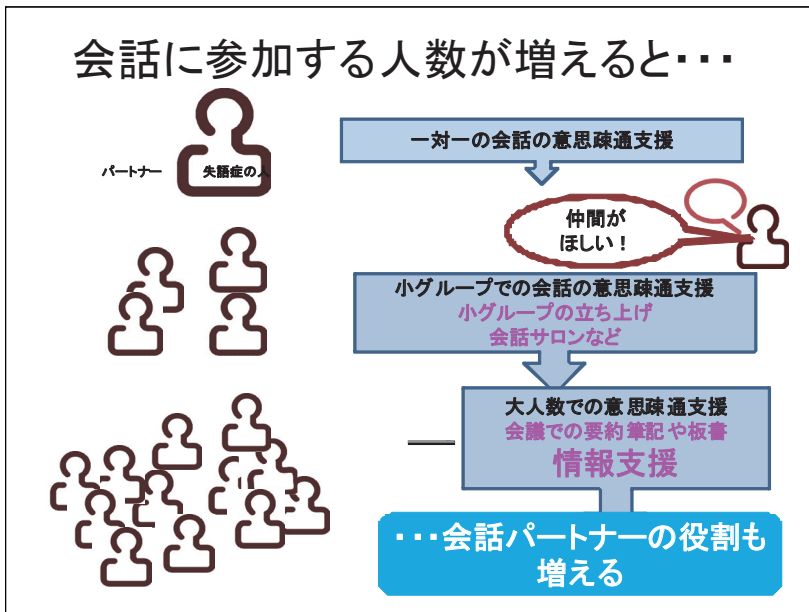
A;訪問の目的、概要など最初に失語症の人に一緒に読んでもらうが、そこに「目的:楽しい会話」と明記している。その方が言語的に回復するのが目的ではない。その時間を楽しく、生き生き過ごしてくれること自体が訪問の目的と考えている。変容の様子は見聞きするが、それは目的ではない。

4. まとめ



会話パートナーは、失語症をもつ人と支援する人が対等な立場であるという姿勢をもち、本人の意思を尊重して、確認しつつ周囲とのコミュニケーションを支援する人である。一対一の会話から、会話パートナーの仲立ちによって、複数の仲間とのコミュニケーションが可能となると、同じ思いを持つ人同士が集まり、各地に小さな自主的なグループが生まれている(参照:各団体の紹介)。また、より多くの人が集まる会

議や講演会などでは、そばにいて会話を支援するという基本の上に、板書やIT機器を駆使して提示法を工夫している。これは失語症者に対する情報アクセス支援とも言える(例:友の会での板書支援、失語症友の会全国大会での講演のpcでの提示)。このような活動や経験を通じて、失語症の人たちは、悩んでいるのは自分一人ではないことがわかり、少しずつ安心感や自信を取り戻しているように見える。そうして再び社会へと目が向くと、多様なニーズが生じてくる。買い物につきあってほしい、自宅に来てほしいという個人的な要望(例:パネルの和音)のみでなく、役所に行きたい、自主グループの開催場所を交渉したいなど、会話パートナーの支援のもと、社会人として元来持っていた力を発揮する人もいる。



一方、その意思に応えたいという会話パートナーの側にも、様々なジレンマや問題意識が生じている。ここで語られた活動は、もっと会話パートナーの数を増やしたい、世の中の人にもっと失語症のことを理解してほしい、自分達の存在を失語症の人にもっと知ってほしい、行政にも訴えたいという

思いからの具体的な活動だった。失語症会話パートナーの役割は広く、その可能性は図で示したように様々な次元に広がっている。四日市市のように市が派遣事業を開始した地域もある。平成 25 年に制定された障害者総合支援法には、意思の疎通が困難な障害者に対する支援の方法を検討すると明記され、四日市市の例は先駆的な試みとして注目されている。

失語症会話パートナーの活動は、まだまだ試行錯誤であり、いまだ人数も少なく、身分的な保証は何もないが、意思の疎通、情報の保障が不十分な人びとへの支援は、差し迫った課題である。このつどいを通じて、社会の進展とともに、地道に積極的にこの活動を続けていく勇気をもたらったと感じている。

